

望遠鏡時間の運用 定常状態(ドーム有)を想定

太田耕司
京大宇宙物理

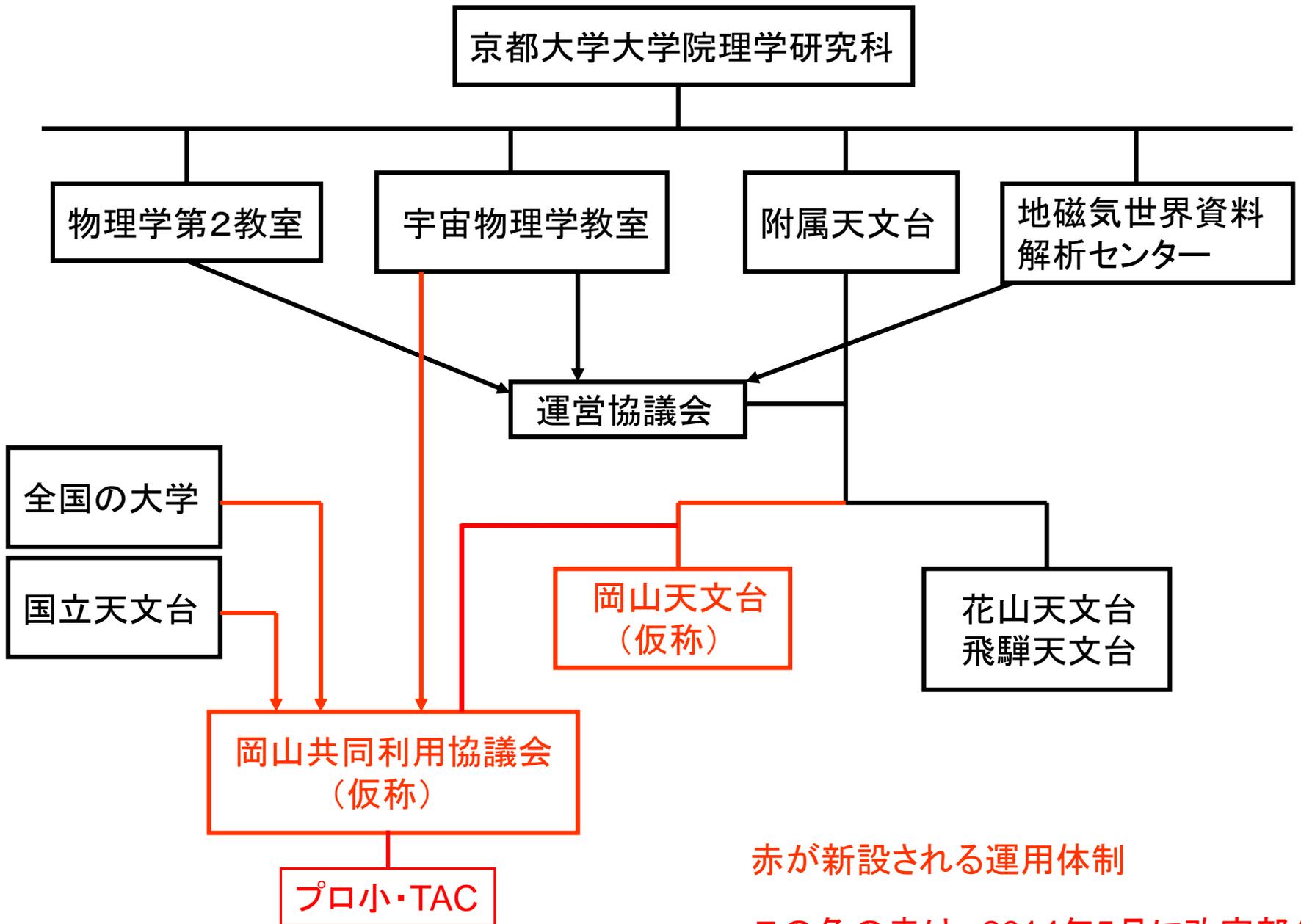
2014年5月22-23日
3.8mサイエンス・装置・運用WS
於三鷹

内容

- 運用の枠組
- 共同利用観測装置 推進体制
- 共同利用観測時間の運用方法
- サイエンス・装置・運用委員会設置
- 等

3. 8m望遠鏡運用枠組

- 京大サイドでは、方針はほとんど不変
(2000年頃から同じ方針)
- 岡山UM等でも2年に一度程度紹介・議論



赤が新設される運用体制

この色の赤は、2014年5月に改定部分

運営組織

- 共同利用協議会(仮称)

運営(予算、人事?)、時間の割振、新規参入?

各大学代表、ユーザー代表、国立天文台、京大

- この下にプログラム小委員会

レフェリー制?レフェリー兼ねる?

現岡山プロ小と似たようなものなのか

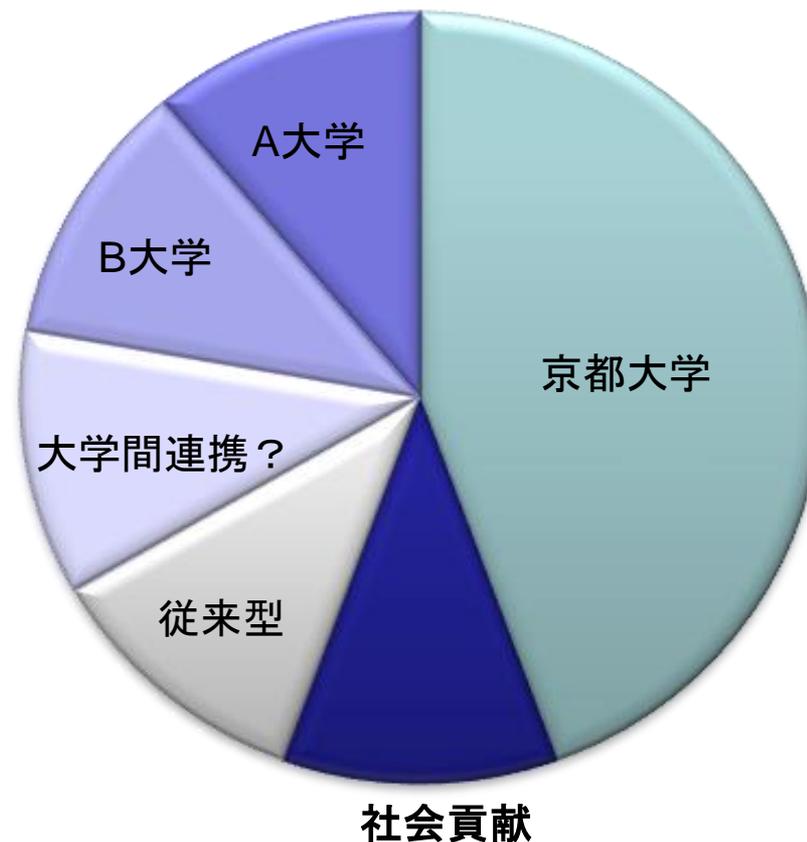
TAO(やUH88?)等を見渡すプロ小?

大学間連携のプロポーザルにするのがよいかも?

そうだとするとこの天文台直下の組織ではなくなる?

NAOの下に、中小口径のプロ小を設置?

A, B大学、従来型の
数・割合は今後の状況次第
今のところ、A, B大学の提
案はない。



WS中での注:

大学間連携は、現在の運営方式に
従うなら、京大枠に入る。共同利用
枠では実施しない。

運用のイメージ

- 従来型共同利用モード時

原則1晩を最小単位(夜に大きな装置交換なし)

装置交換的には1週間単位がありがたい

とはいえ、とびとび観測の需要高いし、ToO観測も頻発だろう

⇒装置交換ではなく、稼動型装置?(ファイバー移動とか)

最大申請夜数は?

- 大学への割付モード時

一週間単位?数週間もあり?その中での使い方はその大学の裁量
(とびとび観測やToOの割り込み可?装置による?)

共同研究で他の大学と一緒に観測するも可

マシンタイム買取?(運営費、科研費など)

大学枠は全体の何%まで?

(大学には国立天文台の1グループも含まれる)

運用のイメージ2

- 従来型共同利用ではキュー観測??

(大学間連携も?)

人手がいるが、観測効率はよいだらう

教育的にはよくない?

キューの実施の仕方にはいろいろあり得る

- リモート観測?
- 国際枠?

3. 8m望遠鏡・サイエンスと観測装置計画

装置	サイエンス	PI	備考
高速測光・分光器	激変星等	野上	既存(要改修)
可視面分光装置	GRB・重力波 他	太田	開発中
高コントラストカメラ	系外惑星	松尾	開発中(1ナスミス占拠)
可視近赤外撮像・分光装置	QSO進化	岩室	検討中
可視高分散分光器	スーパーフレ ア・系外惑星等		予算申請中 (HIDES後継機)
(多色広視野同時カメラ	系外惑星	成田	開発中)
NIR高分散分光	M型星の周りの惑星	田村・小谷	検討中

タイムスケジュール

年度	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	
望遠鏡・ドーム	建設・調整	-----→			共同利用	
高速測光・分光	既存			3.8mへ		
可視面分光	開発	188cm		3.8mへ		
高コントラストカメラ	開発	-----→			3.8mへ(機能強化)	
可視高分散	予算申請	開発	-----→			3.8m
可視・NIR撮像分光	検討中					
多色広視野同時カメラ(*)	開発	188cm	-----→			研費終了後3.8mへ??
NIR 高分散 (**)	検討中		開発?		3.8m	

• : PI=成田氏(国立天文台) 3.8m移行は未定

** : PI=小谷氏(国立天文台)、田村氏(東大) 最終共同利用目指したい?

論点

- 共同利用のあり方、共同利用観測装置
- 大学時間の考え方
- 上記のような検討を行う委員会の設置